

仏教ソーシャルワークの新たな展開を見据えて

平成30年9月22日にモンゴルの首都ウランバートルにてモンゴル国立大学主催で“Development of the Asian Buddhist Social Work Activities (アジアにおける仏教ソーシャルワークの発展)”と題して仏教ソーシャルワークシンポジウムが開かれました。ARIISW(当研究所)は後援としてこの会議に関わり、秋元所長と郷堀研究員は本支援事業の研究成果の一部を紹介し、仏教ソーシャルワークの作業定義や各国の現状をまとめる出版プロジェクトについて発表しました。

この国際シンポジウムには80名以上の参加者が出席し活発な議論がなされました。参加者の中にはソーシャルワーク教員、各分野の研究者、僧侶、ソーシャルワーク実践者、NGO代表者などが含まれており、地元モンゴルのほか、日本、タイ、中国、ロシア、オーストラリアからの参加となりました。

会議の際、仏教ソーシャルワークの研究プロジェクトに対する高い関心が確認され、新たな研究や新たな実践の提案が共有されました。



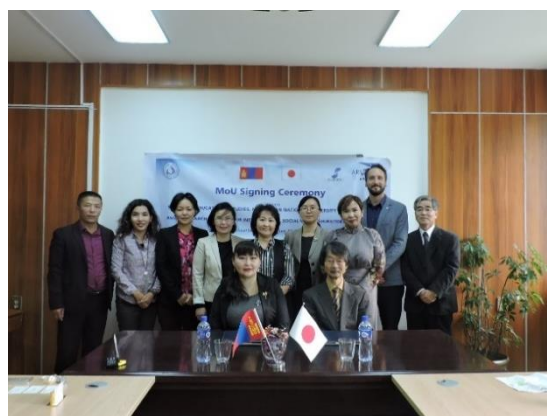
モンゴルの二つの大学と協定を結ぶ

モンゴル国立大学哲学部およびモンゴル国立教育大学教育学部と ARIISW（当研究所）が MOU（Memorandum of Understanding）を締結し、9月22日にモンゴルで開催された国際シンポジウムを機にウランバートル市内で調印式を行いました。

仏教ソーシャルワークに関する研究プロジェクトで両大学に協力を依頼したことが今回の協定締結のきっかけとなりました。モンゴル国立大学の哲学・宗教学科とソーシャルワーク学科、並びにモンゴル国立教育大学教育学部ソーシャルワーク学科と手を組んで、共同研究で確かな研究成果をあげたという実績があります。今後、締結された MOU を土台にしながら、仏教ソーシャルワークや国際ソーシャルワークに関する新たな研究をモンゴルの学術機関と共に進めていきます。



モンゴル国立大学との MOU 調印式は国際シンポジウムの会場で行われました。



モンゴル国立教育大学にて調印式

◆アジア国際社会福祉研究所のニュースがSナビにて月1回程度配布されております。